

令和3年度 長崎市提案型協働事業 審査会・中間報告 結果一覧

		新規審査	新規審査	新規審査			中間報告	中間報告					
種別		行政提案型	市民提案型	市民提案型	種別		市民提案型	市民提案型					
団体名		福田小学校区コミュニティ連絡協議会	NPO法人 長崎ドローン情報センター	東町侍石自治会	団体名		一般社団法人 トムテのおもちゃ箱	もってこい長崎レクリエーション グループお手玉の会					
担当課		廃棄物対策課	農林振興課	東総合事務所地域福祉課	担当課		子育て支援課	市民協働推進室					
事業名		高齢者等のごみ出し支援事業	ドローンを活用した 鳥獣害対策事業	矢上普賢岳魅力向上事業	事業名		切れ目のない子育て支援 環境整備事業	「知って」「考えて」「行動する」 よかまちづくり事業					
事業費総額(円)		950,328	895,000	990,000	事業費総額(円)		478,170	613,430					
(市負担額)		950,328	895,000	990,000	(市負担額)		478,170	613,430					
番号	審査項目 (2次審査/継続審査)	配点	各審査項目における平均点										
①	目的・課題の明確性	10	8.4	7.6	8.4								
②	協働の必要性	10	7.6	7.6	8.4								
③	協働による相乗効果	10	7.6	6.4	8.4								
④	協働の役割分担	10	7.2	6.8	8.0								
⑤	事業の企画力及び広域性、 他地域への波及効果	10	8.0	7.2	8.4								
⑥	事業の実施能力	10	7.6	7.6	7.6								
⑦	事業の計画性、実現性	10	6.8	7.6	6.4								
⑧	事業の継続性、発展性	10	8.0	7.6	8.4								
⑨	費用の妥当性	10	8.0	6.8	8.4								
⑩	事業への熱意	10	9.2	8.0	9.2								
合計点(点)		100	78.4	73.2	81.6								
得点率(%)		100	78.4%	73.2%	81.6%								
審査結果		採択		採択		審査結果		審査対象外					
審査会コメント		<p>高齢者等のごみ出し支援として、本市では既に「ふれあい訪問収集事業」を実施しているが、今回、福田地区において、この支援の対象にならない方々のごみ出し支援に取り組もうという事業の必要性は、困難な状況にある方々を取り残さない社会の実現に向けて共感できる内容である。</p> <p>ふれあい訪問収集事業では補えないニーズがあるので、収集の具体的な方法などの検討にあたっては、協議会の強みであるネットワークや柔軟性に基づく立案を期待している。</p> <p>ごみ出し支援の利用者は継続的な支援を求めることになるので、持続できる枠組みも併せて検討してもらいたい。</p> <p>また、今回の事業は、福田地区をモデル地区として高齢者等のごみ出し支援の可能性を探ることから、対象者の選定基準や選定方法、収集方法をはじめ、今回の事業の実施にあたり蓄積したノウハウは、今後市全域に展開していくためにも明らかにしてほしい。</p>		<p>有害鳥獣問題は、本市でも農作物被害や市民の安全安心な生活に影響を与えるなど、大きな問題となっていることから各種対策が取り組まれている。</p> <p>ドローンを活用した有害鳥獣の個体数及び生息域の調査は、試行的な取り組みであり、成果によっては正確な有害鳥獣の把握とともに人的労力の負担軽減につながることを期待される。</p> <p>本事業の実施にあたっては有害鳥獣の動体把握が主な目標であるが、今後の効率的な捕獲につなげていくため、調査結果の活用や検証の方法、効果の測り方及び分析の方法についても検討が必要になると考えられる。</p> <p>特に分析については、市の鳥獣害対策機関とも情報を共有することや、その成果があがるようにどのような分析が必要で、そのために必要な映像やドローン撮影の手法などについて十分に検討して進めてほしい。</p>		<p>地域の魅力向上をテーマにする本事業は、地域住民の元気や自慢につながっていくことが期待できる。</p> <p>プレゼンテーションでは、団体と担当課が事業のストーリーを、はっきりイメージできている印象を受けた。また、団体と担当課のみならず、様々な団体と連携しながら事業を効果的に進めていこうとする姿勢が確認できた点は評価できる。</p> <p>事業の実施にあたっては、次年度以降の山林の維持管理や伝承事業について、どのように継続的な仕組みが構築できるかがポイントになると思われる。特に小・中学生という若い世代に伝承していくため、次年度以降の展開を見越して、何らかの形で矢上普賢岳を学校の行事や学習に絡めていけるように努めていただきたい。併せて、成果指標の設定と評価についても留意いただきたい。</p>		審査会コメント		<p>子育て中の保護者の孤立を防止するため、出産前に、既存の子育て支援の様々な取組みを紹介し、仲間づくりを促す場を作り出す「プレママカフェ」は、出産のための支援と出産後の子育て支援をつなぎ、切れ目のない子育て支援を実現するうえで有効な取組みである。</p> <p>2年目を迎える本年度も、コロナ禍でのプレママカフェの実施となったが、対面とオンラインでの開催を組み合わせ柔軟に対応している点や前年度の事業内容を改善し、必要な情報をより丁寧に伝えるほか、オンラインでは参加者の視点に立ち工夫している点が大変評価できた。</p> <p>一定の成果が出ていると感じられることから、事業が継続されないことは大変残念であるが、今回の事業成果のノウハウを言語化・評価したうえで、切れ目のない子育て支援に継続して取り組んでいただきたい。</p>		<p>「条例」は市民には縁遠いものなので、身近なものとするために、当事業により様々なきっかけをつくってもらいたい。</p> <p>きっかけの一つとして、地域で活動される方々や若い世代の方々が交流できれば、掘り出しが生まれ成果が得られやすいのではないかと感じる。</p> <p>また、事業の実施にあたっては、異世代の方々が条例に触れてそれぞれが感想を持ち、次にどのような行動を起こしていくかがポイントになると思われる。</p> <p>条例の周知イベントや研修会では、全体としての成果がわかりやすくなるように、参加者の巻き込み方やどのような意見が出たかなどの成果を見える化するとともに、客観的な数値を出すように努めてほしい。</p> <p>この事業を通して、団体から条例や長崎市のまちづくりについての考え方を語り伝える伝道師のような存在が出てくることを期待したい。</p>	